

アスト津 市民ボランティアセンターにおける「サイエンスカフェ津」

主催：日本学術会議、三重大学

平成 22 年 1 月 23 日の午後にサイエンスカフェを開催いたします。
テーマにご興味のある方は、お気軽にご参加ください。

日 時 2010 年 1 月 23 日 (土) 13:00-15:00
場 所 アスト津 3 階 市民ボランティアセンター
(津駅隣、アスト津 3 階のオープンスペース)
主 催 日本学術会議、三重大学
講 師 野々村 邦夫 (日本地図センター理事長、首都大学東京客員教授)
ファシリテーター 春山 成子
(日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)
テーマ 大地を測り、地域を描く～地形図の魅力～
定 員 25 名
参加費 無 料

《講演内容》

どこに何があるか、どこはどうなっているか、などというような、地域に関する情報は、地理的な情報といわれます。地図は、地理的な情報を記録し、伝達し、解析するためには、非常に便利で使いやすいものです。少し込み入った地理的な情報を、文章や数字だけで表そうとすると、膨大な量になります。また、仮に文章や数字だけで表わせたとしても、理解することは容易ではないでしょう。地図を見れば、地理的な情報が「一目瞭然」に分かります。「百聞は一見に如かず」ともいえます。

限られた大きさの 1 枚の紙の上に、多くの情報が盛り込まれ、しかも、それが分かりやすく表現されている地図がよい地図です。よい地図に出会えば、地域の姿を生き生きと思い浮かべることができます。確かに地図には多少の約束事がありますが、ある程度慣れてしまえば、こんなに便利で役に立つものはありません。地図を片手に、野山の散策やまち歩きを楽しみませんか。もちろん、出かける前に地図を見ておけば、見どころはしっかりと押さえておけます。帰ってから地図を眺めれば、足を運んだ先々での楽しい思い出が蘇ってきます。

地図には多種多様なものがありますが、国土地理院が発行する 1:25,000 地形図は、日本の地図の中では最も基本的な地図といえるでしょう。地域の自然や社会・文化に関する情報が全国的にきめ細かく正確に表示されているからです。とはいえ、膨大な量の情報を記録し、伝達しようとするれば、自ずといろいろな制約を受けます。地図を利用する際、そのような制約についてある程度知っておくことも、より上手な利用につながります。

この度のサイエンスカフェでは、地図の魅力を感じ取っていただけるよう、1:25,000 地形図を中心に、地図の作り方、若干の約束事、そして地図を通して地域の姿をどう読み取るか、などといったこととお話ししたいと思います。